

東京外語会有志による海外支部歴訪の旅
第 17 回ヤンゴン支部訪問
～癒しと安らぎの国 ミャンマーを訪ねる～
(2017.2.6 ～ 2.11、OP 12)

< 3 >

ヤンゴン市内 ～ 日本人墓地献花、シュエダゴンパゴダに仰天 ～
2月10日（金）

マンダレーから空路ヤンゴンに戻り、午後は日本人墓地で献花した後、市内最大のボージョーアウンサンマーケットを見学、ショッピングのあと、「聖なる黄金の塔」と呼ばれるミャンマー随一のシュエダゴンパゴダを見学。ヤンゴン北側の丘にたつ高さ 100m の大仏舍利塔が目を引く。2500 年以上の歴史があり、大小合わせて 66 個の壮大な金ぴかのパゴダ群に圧倒された。ここで、生年月日の曜日別に安置された仏像の前で身体健康・家内安全を祈願した。境内では、熱心に祈るミャンマー人の姿が絶えることがない。英国の植民地だったためか、英国人を初めヨーロッパ人の観光客が多かった。

夕食後、ヤンゴン空港へ向かい、午後 10 時 10 分発の飛行機で 12 名が元気で帰国の途についた。オプションでチャイティーヨのゴールドンロック観光を行う組（4 名）は市内のホテルに向かった。



日本人墓地で献花



シュエダゴンパゴダにて

チャイティーヨ ～ ゴールドンロック ～
2月11日（土）

ホテルを発ったのは朝 5 時 45 分、門馬、鈴木それに私共夫婦の 4 人とガイドのヤンさん、それに彼の特別な配慮で、加わった補助ガイドが車に乗り込んだ。

やがて車の左手に沈み行く赤い月、右手に今正に昇らんとする太陽を臨みながら、車はひた走った。途中の休憩を入れて、約 5 時間でチャイティーヨの麓にたどり着いた。さて、これからは怖れていたトラックによる山登りである。しかし、予想に反して、40 人強

の乗客を満載したトラックに揺られたのは、15分走行後10分停車、更に残り15分の45分のみであった。



チャイティーヨーにて



ゴールデンロック

チャイティーヨーの山頂は、だらだらとした坂道で、頂上の左手の崖上に目指すゴールデンロックが鎮座している。岩に女性が近づくのは御法度で、門馬さんが1500チャットで買った金箔5枚を岩に貼り付けに行った。なかなか難しくて、私の見るところ大方は、指にくっついたか、風に飛んだかに違いない。山頂にはほぼ1時間滞在して、山を下った。

この日、我々4名はゴールデンロック観光の帰路、窓外に立派な建物をみたがヤンさんによればこれは先の大戦時に犠牲になった連合国の将兵を祭る記念館であるとのことであったが、ミャンマー人の気心が知れて心が休まったものであった。

鈴木さんも、一番の難関の聖地を訪ねることが出来て、ご主人のご供養になったと思う。

ヤンゴン市内に戻り、夕食を取ったあと空港に向かい、22:10発の全日空機で帰国の途についた。帰りは6時間ほどで成田に着き、再会を約しながら家路についた。

執筆者	2/6~2/8	富山絢子 (F1964)
	2/9~2/10	林義之 (F1966)
	2/11	村田吉隆 (C1967)